

Q2：年間指導計画はどのように作成したらよいですか？

A： 年間の指導計画を作成するにあたって、その拠り所となるのが学校で設定する「英語活動の目標」や「各学年の具体的な目標」です。児童の実態や、興味・関心に応じて最初に目標を設定し、それに基づいて題材や指導内容を選択していくことが大切です。

また、英語活動の時間を教育課程において、どのように位置付けていくのか（総合的な学習の時間、学校行事、学校裁量の時間、朝の会や帰りの会等）という基本的な構えをもつことが大切です。その上で、児童の発達段階を踏まえ、以下の点に考慮して指導計画を作成するようにしましょう。

1 年間指導計画作成の手順

- (1) 学校における英語活動の目標（各学年の具体的な目標）を明らかにする。
- (2) 英語活動の年間配当時数を決定する。
- (3) 題材・活動内容を選定する。
- (4) 活動内容に必要な言語材料の配列、系統を考える。

*各学校における指導体制や教室環境等も考慮することも大切です。

2 年間指導計画作成のポイント

(1) 題材

児童の発達段階を考慮し、児童が興味をもち、英語で表現したいと思っていることを把握しながら題材の工夫をしていくとよいでしょう。

以下に、題材を選ぶ視点の例を挙げてみます。

①日常生活との関連

(例) あいさつ、色、体の部分、食べ物、乗り物、買い物、スポーツ、数 等

②学年の年間行事との関連

(例) 入学式、遠足、修学旅行、夏休み、運動会 等

③季節やその移り変わりとの関連

(例) 節句、衣替え、梅雨、七夕、紅葉、正月、雪 等

④地域の特性や地域の行事との関連

(例) 祭り、名所、観光地 等

⑤日本や外国の文化や行事との関連

(例) クリスマス、正月、ハロウィン 等

⑥他教科・他領域との関連

(例) 図形（算数）、生き物（理科）、世界の国々（社会）、色遊び（図工）等

(2) 場面設定

場面の設定は、以下の点を考慮して行うとよいでしょう。

- ①子どもにとって身近であること
- ②子どもの興味・関心が高いこと
- ③コミュニケーションを図る活動が容易であること

(3) 活動内容

子どもの発達段階や学習経験年数を考慮し、活動内容を考えていくことです。

①「英語に触れ、慣れ親しむタイプ」

ア 英語の音やリズムに触れる活動：歌、チャンツ、TPRなど

イ 英語の単語や表現に触れる活動：ゲーム、ビンゴなど

②「実際に英語を使用するタイプ」

ア 英語の表現に慣れる活動：買い物、レストラン、道案内など

イ 実体験を通して英語に親しむ活動：料理づくり、調査活動など

③「自己表現するタイプ」

ア 英語での自己表現活動：自己紹介、スキット作り、劇など

(4) 言語材料

活動で扱う言語材料は、題材と活動内容を基に、その活動を行うために必要なものを考えることが大切です。

また、同じ題材を扱う場合には、児童の発達段階や学習経験に応じて言語材料に変化をもたせるなどの工夫も必要です。活動を行う際には、言語材料を覚えることが目的でないことに留意したいものです。

扱う語彙は、平易なもので様々な場面で応用可能なものを扱うとよいでしょう。また、自分自身や身の回りに関することから、社会的なこと、他教科・他領域に関連することへと題材とともに広がりをもたせていくことも重要です。

文・文型は、児童の生活に身近なもの、英語で表現したいと思っていることをいろいろな場面で取り扱うとよいでしょう。児童の発達段階に応じて、低学年では「あいさつ」「必要な物・欲しい物等の要求を表現する・尋ねる」「食べ物やスポーツ等の好みを表現する・尋ねる」等の文を中心に、高学年では「絵の説明等事実を報告する・尋ねる」「近い将来の意向を表現する・尋ねる」といった文を中心に指導計画の中に配列していくのが自然であると思われます。